

2019年度第3回子ども・子育て会議議事【顛末】

2019年10月16日(水) 18:30~21:00

富良野市立図書館 3階会議室

出席者：富良野市：亀淵部長・山本課長・松木

ぎょうせい：廣田

会議委員：青木課長・藤野・川村・桑折・山崎・上坂・青山

1. 開 会

2. 会長あいさつ（青木）

→今の将来の子どもたちの未来を考えると、AIの発達によって、今の仕事の半分はなくなる
少子化にともない、外国人雇用が3倍に増える
これからの子どもに求められる力は「困難に耐えられる力」
幼稚園はH30要領がスタートし、小学校はこれから
「学びの連続」がキーワード。幼保小の連携が重要
10月23日こども未来課主催の研修会テーマはそのテーマで進めるのでぜひ参加を

3. 報告事項

→これまでの経過を計画（案）の前半で説明【資料1参照】

4. 協議事項

（1）子ども・子育て支援事業計画（案）について【資料2参照】

→4つの基本方針×18の方向性について、具体的なアイデア・質疑を委員から自由意見

1. 安心して妊娠・出産できる環境づくり

1-1. 母子の健康・確保

委 員：不妊治療・感染症への助成は、今以上に範囲を広げるという意味？

事務局：はい、検討段階ですが、全額助成をしている訳ではないので検討中として記載

委 員：不妊検査はどこまでの範囲か？全額？半額？感染症は高齢者の方が優遇されている印象
子育て世代への優遇に舵をきってほしい

ただし、予算あってのこと。どれを優先していくのか？

この計画にはどこまで書くのか？

事務局：計画には詳細には書かない方向

5か年の担保が議会側にも取れないため、あくまで方向性に留まる

不妊治療の検査・方法も多様にあり、感染症の範囲も広い

この段階ですべてを網羅するものではなく、現在の助成の枠を拡大していく方向で議論
どの治療・どの予防接種かまでは議会・予算の関係から詳細に記載はしない方向
対象範囲または助成額の増を検討していく

※全体的に、皆様からは、不足している事業や記載している内容について重点的に強化した方が
いいなどのご意見をお願いします

1-2. 食育の推進

委員：幼児の食育のイメージは？

事務局：子育て支援Cで行う食育の研修会がこれまで実施してきたこと
さらに追加意見あれば

委員：中学を記載していないのは意図があるか？

事務局：ターゲットは未就学を中心に小学校までとした

委員：現在、市内の4幼稚園は旭川の業者から納入している

今後、富良野の給食センターからの供給にはならないか？

旭川からの給食納入は冷めている等の問題あり、地産地消の観点でも重要と考える

事務局：検討は可能

幼稚園・高校の支援という視点では他市町村でも事例はある

子どもの数が全体として減っていて、提供数も減っている

給食センターの在り方として検討していくことは可能

まだ具体的には議題に上がっていないが、検討可能

委員：ふらの牛乳を毎日飲めたほうがいい。よつば牛乳では食育にはならない

牛乳に限らず、富良野食材を積極的にもっと活用してほしい

委員：乳児の離乳食・栄養相談も今以上にサポート必要

乳幼児期の食の重要性をもっと啓蒙・情報発信を事業化

委員：1人目の食育は慎重に行うが、2人目・3人目は味が濃くなりがち、手を抜きがち

同じようにフォローすべき

委員：アレルギーの最新情報についても親世代は知りたい

食全般にまつわる情報発信にもっと加えるべき

事務局：母子モアプリを含めて食育発信はもっと多くの発信を検討すべき

というご意見で整理

1-3. 小児医療・産婦人科医療の充実

委員：現在の状況は

事務局：協会病院の産婦人科医師の2名体制の確保に1000万ほどを助成している

H28は1名体制で月10名が上限だった

現在は2名体制であるものの、助産スタッフの確保が難しく月15名が上限

※月15名×12か月=180名上限

ここでは、さらに移住施策との連携が考えられる

現在、企画課の移住施策は、子育て・介護人材にターゲットを絞っていないが

今後は、担い手不足×移住施策と連動する必要がある

地域が欲しい人材には住宅支援などの施策を手厚くするなどの連携が必要ではないか？

と企画課に投げかけている

直接、病院に補助するだけでなく、間接的（対象者には直接）に補助する検討も必要ではないか？という視点

事務局：内科医も常勤がいないので、今年から倍額の1000万円にしている

委員：先端の医療・検査が受けられない上に、市外の病院への移動費の負担も大きい
妊婦への身体的・経済的な負担軽減策を検討すべき
妊婦の糖尿病も富良野では検査を受けられない現状は改善しなければ、医療体制の不満から富良野を離れる人は多い

1-4. 相談機能・情報提供の強化

委員：発達支援の相談体制の中に、「スクラム」という子ども成長の共有の仕組みがある
上富良野では全てのお子さんが対象
富良野にも発達支援だけでなく「スクラム」の全体化が必要

委員：子育てカフェの設置を
幼稚園に行ってる子どもは、子育て支援センターが使えない現在に不満が多い
子どもも少なくなっている現状では、その枠を改善しては？

事務局：今年の夏休みは、実証実験としてその枠を外してみた
パパ広場も枠を昨年から拡大している

委員：保護者の視点では、子育て支援センターに断られたという印象を持つてる
安全を考慮した視点での入場制限は保護者には伝わっていない

事務局：運営の仕組みを考慮しながら拡大していく

2. 乳幼児期における健やかな育ちの支援

2-1. 幼児教育・保育の充実

委員：保育士は募集してもこない。3年連続募集しても3年連続応募ゼロが現状
都会では家賃助成に8万円助成していて、かなわない

委員：幼稚園に保育士が集まらない現状には、富良野市としても対策が必要

事務局：今年、企画課で行っている東京の移住フェアに保育・介護人材の富良野市への問い合わせは20人中で1人。40代の介護人材のみ
今後は20人中で5人のみ、お試し企画で富良野に入ってくるが、その選定は企画で行っている
現場の声をもっと反映し、移住相談などのそういった情報を子育て関連にもっと回してほしいとお願いしている

委員：学校の誘致が厳しくても、奨学金制度の優遇を
富良野以外の学校に行っても保育士として戻ってきたら5年富良野に就職し定着したら免除の施策などを検討すべきでは
若い子は都会で経験すべきだけど、帰ってきたときは免除で優遇すべき検討を

2-2. 子育て支援（負担軽減）

委員：給食費の無償化は、幼児教育の部分ですか？

事務局：はい、現状は有償ですが沿線市町村では無償化に一部なっていますので
引き続き検討が必要
市の財政負担は数千万円になるので簡単ではない

委員：あくまで入院無償？治療費ではないのか？

事務局：はい、今年から枠を拡大検討中です

委員：財源が決まっているので、費用対効果でどこに集中投下するかは重要

事務局：中富良野・上富良野は町立病院を持っている関係で助成している

委員：南富良野は大学生まで無償

- 子育て支援には、医療費の無償化は安心材料としても大きい
事務局：試算では年2~3000万の負担になる
委員：費用対効果としても医療費の負担軽減は満足度向上は確実に上がる
事務局：企画課で行っているアンケート調査結果では、医療と住宅問題はそんなに大きくない
委員：おむつ券の助成は1年だが、せめて満2歳まで拡大が必要

2-3. 発達に遅れのある子どもの支援

- 委員：入所希望のお子さんを十分に受入できていない。待機がある状況
改善していく必要がある
年長まで待ってるお子さんもいる。就学前の4才までに支援が必要
発達支援・作業療法士の確保が難しい、いない
さらに医療機関とのタイアップ連携も必要
各学校への訪問支援体制も重要。
訪問支援を受けると保育所側の先生のレベルアップにつながる
委員：先ほどでた「スクラム」
ボーダーのお子さんを幼稚園から小学校で受けた時、ボーダーのお子さんをスムーズに
ウィスクをかける体制づくりが急務
市内の小学校にはウィスクの検査ができる方は校長先生の1名しかいない
ウィスクにかけるスピード感を早める仕組み
委員：5歳児検診が今後重要になる
委員：ウィスク支援・5歳児検診・子どもの情報の共有体制を学校・病院・幼保連携をスムーズに
行うことが求められる

2-4. 社会的支援を要する子どもへの対応

※特に追加意見なし

3. 自立や社会参加に向けた適切な支援の提供

3-1. 子ども健全育成の充実

- 委員：児童館の充実の具体策は
事務局：開始と終わりの時間の延長を検討中
8:30⇒8:00・18:00⇒18:30
ここでもスタッフ不足があり、拡大にはスタッフ確保が必要
事務局：社会教育課では、会計年度職員の導入で時間枠の拡大をシュミレーション中

3-2. 教育環境の充実と生きる力の向上

- 委員：プログラミング教育の充実は、幼少期への導入の視点ですか
事務局：まずは小学校の論理的に考える視点が中心。
プログラミングは手段であって、何を解決するために学ぶのか？という総合的な視点が必要であることから小学校の先生、教育委員会側もその活用にあたっては、総合的な視点で
事前に学ぶ必要がある
一方で、チームラボなどの取り組みが都会では当たり前になってきている
デジタルで遊びながら学ぶ視点はどんどん幼少期にも広がっている
後退することはない
事務局：児童も入れていただきたい

- 委員：小学校の授業コマはどうなっていくのですか？
英語やプログラミングの必要性は理解しているが、日本人が持つべき従来の日本語能力等は大丈夫ですか？
- 委員：来年度から小学校の時間数は増える
その中に外国語が入ってくる
プログラミングの教科は特別な時間枠はなく、他の教科との連携で行っていく
例えば算数の時間や理科の時間との複合系でやるイメージ
- 委員：いずれにしても日本語での読解力は重要ですが、コミュニケーション力が問われる
- 委員：プログラミング教育は学校によって時間数は変わり、特色がでてくる
高校はプログラミング教育が必須
- 事務局：看護学校でも外国語の力が必要だが、翻訳機の導入が進んでいる
しかし、翻訳機は正しい日本語を入れないと正しく翻訳してくれないので、改めて日本語教育の必要性が見直されている
- 事務局：具体的にプログラミング教育はどんな内容が考えられるか
- 事務局：今は緑峰高校生によるプログラミング指導が始まっているが、幅広くネットによる遠隔会議やアプリ活用による個別最適化による授業の在り方など検討する必要がある
- 委員：テクノロジーは幼児の方が使いこなしている
機械に使われないように使いこなす教育が必要

3-3. 子どもの居場所づくり

- 委員：こども食堂について、側面支援などの検討は必要ないか？
- 事務局：こどもの貧困解決の一つとして注目されている
貧困＝居場所づくりの他に、保護者の貧困問題であり、経済的負担と連動すべきと思っている
- 委員：今後、こども食堂を作りたいという団体が出てきた時にどういった支援が考えられるか
- 事務局：場所確保・初期投資支援・人的支援など、こども食堂の形態によって支援の内容は変わる
あくまで側面支援に留まる

3-4. 読書活動の推進

特になし

3-5. 子どもの権利を守るための推進

- 委員：乳幼児期から継続して子どもを見守る仕組み＝北欧のネイボラのような仕組みを構築する必要がある
- 委員：虐待はどれくらいある？
- 事務局：年間20件程度。どこまでが虐待かは難しい
最近では、夫婦喧嘩でも心的虐待で通告される
また、親が自分の都合を優先させる傾向にある

3-6. 思春期対策の充実

特になし

4. 子育てを支える環境づくり

4-1. 時代の親の育成

委員：幼稚園と寿光園・幼稚園と高校など多世代の交流が必要

委員：強制的に作っていかないとコミュニケーション力の低下につながる

4-2. ワークライフバランスの向上

委員：企業型保育の拡大について経団連が積極的に支援をする動きがある

4-3. 地域の教育力向上

委員：コミュニティースクールの活用・推進も入ってくる

4-4. 子育てに配慮した居場所環境の整備

委員：新庁舎のこどもの遊び場はどんな内容？

事務局：200㎡と小さいので未就学児対象のスペース

発散はできないので、その他の場所も検討が必要

委員：何を置くのか

事務局：まだ決まっていない

富良野を感じられる・四季を感じるなどの意見がある

事務局：ママカフェ的な自由度の高い運営を考えていく

委員：アンケートからのニーズは発散系

事務局：雨や雪への対応には室内ニーズが高いので引き続き検討していく

庁内の子育て会議の中で、道路公園係でも乳幼児に特化した遊具を設置した公園整備

を駅の東西に1か所ずつ設置する案もある

砂場も撤去される時代背景の中で、砂場遊びは子どもの創造力を高めるためにも重要

室内の砂場設置を含めて検討していく

以上、頂いた意見を「新たに検討すべき事業（案）」として整理し、庁内の子育て会議でも共有し、各課による具体的な検討を引き続き行ってまいります

5. その他

(1) 今後のスケジュール案

・11月：パブリックコメント（予定）

・12月：パブリックコメントへの回答

・1月：第4回子ども子育て会議（予定）

6. 閉会